

## 別府らしい、別府でしか体験できないアートを 市民とともに実現することで町の活性化に。

別府といえば世界有数の温泉地だが、アートの持つ力によって町の魅力を高める活動に取り組んでいるのが「BEPPU PROJECT」である。その集大成となる「別府現代芸術フェスティバル2012『混浴温泉世界』(以下「混浴温泉世界2012」)の開催を前に、有識者、文化関係者、アーティスト、行政、市民が参加するシンポジウムが開かれた。

### アートによって 地域の課題解決を目指す。

源泉数や湧出量で日本一を誇る温泉地、大分県別府市。ここを活動拠点としているNPO法人が、BEPPU PROJECTである。2005年の発足以来(06年法人化)、「アートが持つ可能性を社会化し、多様な価値が共存する世界の実現を目指す」をミッションに掲げ、現代芸術の紹介や普及、人材育成に関すること、地域情報の発信、ハード整備など、200件近い事業を展開している。その活動の原点にあるのは、アートを媒介として人、モノ、資源、価値観

など、さまざまな要素をつなげることで地域の課題解決を図りたいという思いである。

そうした活動の積み重ねで実を結んだのが、2009年4月11日～6月14日に開催された「別府現代芸術フェスティバル2009『混浴温泉世界』」である。このイベントは市民主導を掲げ、市内に整備された「platform」などを会場とした市街地全域回遊型の国際芸術祭で、期間中に延べ約92,000人の観客動員数があり、平成21年度の文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞した。成功裡に終了した半面、課題も浮かび上がったと、BEPPU PROJECT代表理事で、芸術祭の総合プロデューサーを務めた山出淳也さんは語る。

「全国的な知名度や評価に対して、地域の理解度が低い。市民主導を掲げたものの、発表者・鑑賞者・関係者以外の市民の参加者が少なかった。また、全国的な集客数がまだまだ低い。別府という町の魅力をターゲットに向けて伝える広報が必要だと感じました」

そうした課題を解決するため、BEPPU PROJECTで



2009年に開催された「混浴温泉世界2009」の様子

撮影：杜多洋一



混浴温泉世界シンポジウム2011の様子



学生が大量の風船を使用し「秘密基地」ならぬ「公開基地」を制作



全国の40歳未満の若手アーティストを対象とした公募展「BEPPU ART AWARD 2011」にて、グランプリを受賞した山田健二による個展

は、10年と11年に小規模な文化団体や個人の創作者などが参加できる市民芸術祭「ベップ・アート・マンス」を開催。また、別府のファンを拡大するため、若年層や女性客をターゲットに口コミで魅力を伝えられるよう無料配布冊子、ウェブサイト、マップなどの制作を行っている。

### 芸術祭や今後の活動の展開に 寄与したシンポジウム。

2012年10月6日～12月2日には、2回目となる「混浴温泉世界2012」の開催が決定。さらに、今回は「ベップ・アート・マンス」も同時開催されることになっている。それに先立ち、2011年11月には「混浴温泉世界シンポジウム2011」が開催されたが、その企画・実施にAJOSCの助成が活用された。このシンポジウムは、「観光地型 文化創造都市・別府の実現を目指して」をテーマに開かれたもので、「混浴

### 担当者より



助成のおかげで  
財政的裏付けができ、  
シンポジウムを開催。

NPO法人BEPPU PROJECT  
代表理事  
山出淳也さん

「混浴温泉世界2012」開催に向け、すばらしいシンポジウムを開催することができ、行政との認識共有や市民の理解も深まりました。次のステップ、ステージに進むためのマイルストーンとなる試みだっただけに、感謝しています。

温泉世界2012」の具体的な計画発表や参加アーティスト自身によるプレゼンテーション、市民の創造力による文化的な都市実現を考えるパネルディスカッションや市民フォーラムなどが行われた。

「一人でも多くの市民が主体的に関わることが、私たちの目標。このシンポジウムで文化庁長官の近藤誠一さんや前NHK会長の福地茂雄さんなど、第一線で活躍する方々からパネリストやコメンテーターとしてお声をいただいたことは、市民の理解の進展に役だったと思います。実際、市民フォーラムでは多様な市民の方々から、自分も参加したい、関わりたい、お手伝いしたいという声や支援の声をいただきました。この秋に開かれる芸術祭はもちろん、今後の私たちの活動を考えるうえでも、今回のシンポジウムは有意義なものになりました」

そう、山出さんは語る。アート、なかでも現代芸術といえば極めて限られたファン層に支えられているというイメージがあるが、「多様性・交流性・物語性」(山出さん)という別府の町の特徴を背景に、別府というフィールドで展開することで、市民の共感を得て、アートを地域の主体的な取り組みにつなげようという意欲が感じられる。それは同時に、アートそのものの魅力を高め、その可能性を拡げることにもつながっていくように思える。この秋には、「混浴温泉世界2012」と「ベップ・アート・マンス2012」を楽しむためにぜひとも別府に出かけてみたい。

写真提供：©別府現代芸術フェスティバル2009実行委員会  
©別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会